

新山協ニュース

第2号

新潟県山岳協会

発行者 鈴木 敏雄

新潟大学山の会とソ連の山

新潟大学山の会 小林兼一郎

新潟大学山の会とソ連とのかわりは、もう交渉期間を含めると八年ほどになります。この間余曲折をへて、我々当初の目標に達したわけでもなく、まして初登頂等の記録をつくったわけでもありませんが、この八年の経過の中にも少しは皆様の御参考となることもあるかと考え報告する次第です。

手許の記録によれば昭和四三年頃、若干会員の中から自発的なソ連山域の研究会が発足し、日本山岳会丹部氏・田村氏(のちモスクワ駐在)との接触からのパミールにしばらく、あらゆる手段で実現をめざした。新潟がハバロフスクと姉妹都市であることからまた、新潟大学が断片的ながらソ連の大学・学界と交流していたことも手伝い「新潟大学日ソ親善登山協会」を結成し学長も積極的に動いて下さった。

をうらやみながら、パミール放棄の声も出はじめた昭和四六年、突然、ソ連アルピニズム連盟より日本山岳会を通して第五回ソ連岩登り大会への招待が舞込んだ。これは、ソ連がクリミヤ半島のヤルタで開催するもので、連那諸国はもとより十数カ国が参加するアルピニストの国際交流の場ともなる願ってもない機会だった。

日本代表の資格で二名を昭和四二年のサラダール(七三九九米)に続き久々に海外に派遣することとなり、ここで一気にパミール入山の交渉をしようとして羽田を発った。

しかし、その後もサッポロ冬期オリンピック(昭和四七)で来日の要人と会談したりしたにもかかわらず交渉は捗らず、昭和四八年にもう一度例のクリミヤ岩登り大会に日本隊として三名を送ることにした。そんな折も折、予期しなかった一九七四年度夏のパミールアライ谷における国際山岳キャンプへの招待がとど

た。我々の所期の目的はソ連最高峰のコムニズム峰(七四九五米)であり、いささかレーニン峰(七一三四米)では物足りない。いまさら登る意義がない等会員の中からもクレームがついたが、ここでチャンス逃すべきでない。また、今まで多くの方々の御尽力に背くべきでない等の意見が大勢を占め、エントリーした。

布施新大山岳部々長を隊長に、十五名のパーティを編成した。(当会八、新大山岳部三大阪外語大山岳部四)これは県内はもとより、ソ連山城へいどむわが国初の本格的登山隊として注目された。(しかし一方、いささか大時代的一部ささやかれました)日本山岳会・日山協の山行として承認され、七月出発した。隊長を新潟駅頭で見送った。同時に一沫のさびしさを味った。

この一行も派手なアクションの連続で留守本部をハラハラさせた。予定を過ぎても登頂成功の電報がなかなか入ってこない。折しもパミール地方に震度七・六の大地震が発生、雪崩に遭遇・ルート変更・遭難者続出・登頂断念か(?)の暗いニュースばかりが舞込む始末。しかし、遂に八月十三日、レーニン峰・ラズジエリヤナ峰(六一四八米)登頂成功の電報が入った。この時のソ連女性隊等の大量遭難は史上最悪の記録としてさわがれ、発見救助に新大隊が当たったため内外のマスコミからの電話取材対応に数日間くぎ付けされてしまう。

おかげ様で当方に遭難者を出すこともなくレーニン峰登頂を果すことができた。私共は皆様の御厚情にこたえるべく昭和五〇年一月に市内デパートでパネル展を開催した。県内からの初の本格的登山隊の写真展ということで(デパート側の巧みな宣伝も手伝い)意外な反響をよび多くの市民の方々に観ていただくことができた。一つのあり方を示したつもりである。その間、思わぬ方々から質問を受けた。りし、我々社会人の団体としてやはり何らかの形で成果を市民に問うべきだと痛感した次第である。何らかの御参考になれば幸である。

こうしてソ連との交流はレールがしかれた。本年一月また招待状がとど

いた。それはカフカズ登山への誘いであった。このカフカズにはベゼンギを基地にして一ヶ月定着するという優雅な計画である。もちろん日本からはすでに数パーティが入っているが、ベゼンギ・ミジル

ギ両水河に入山しじっくり諸ルートを開拓するのは初めてであり、この辺の最高峰ディフタウ峰(五二〇四米)には日本人は未登のはずだ。早速若手の三名を参加させることに決定。七月出発、目下岩登りにはげみつつ未紹介の地の写真を撮りまくっているはずである。

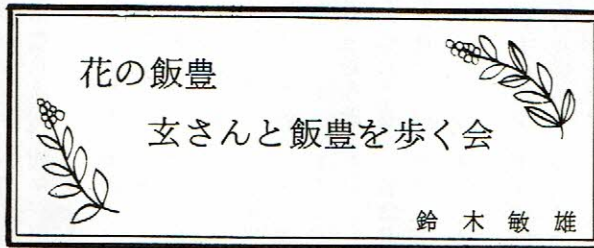
ソビエトには天山がある。ここは絶対門戸を開かないだろうとも、あるいは案外そうでないともいわれている。今後いろいろの方面から手をつくし天山にパーティを新大から、新潟県から送りたいと思

っている。ソ連の山々に私共がとり組みスクールカラーとしても認められてきた経過を長々と述べました。皆様が海外登山計画をお立ての際何かの御参考になればとおもい記した次第です。

「追記」外電によればソビエトは前述遭難者の遺体収容のため、今夏パミールで大がかりな活動を開始したという。成功を祈るとともに御冥福を

祈ります。なお、新大カフカズ隊は所期の目的を果し、八月二十九日無事帰国した。昨年七月の「玄さんの飯豊山旅五十年」にひきつづき今夏も七月二十六日、花盛りの飯豊連峰の主稜遊歩を計画、玄さんの愛嬢・豊子夫婦を迎え一行十二名それぞれ三台の車に分乗して胎内溪谷を頼母木平へと向う。

途中四十二年水害で痛めつけられた胎内川に治水ダムの工事中、来春には完成するコンクリート打設を眺め夕暮れ近く胎内小屋につく。井上藤七さんがいつもながら笑顔で吾々一行を迎えてくださる。昨年八月、団体十周年記念飯豊団体を偲ぶ集いの記憶も



新らたな頼母木平、樺林の広場で酒杯が廻る。夜半の雷雨に目を覚まし、もしや明日の天気はと懸念されたが午前四時、朝靄をついて小屋を後に足ノ松沢に向う。仰ぐ峯間から望まれるくつきりと雲一つない青空、東の肩からまぶしい陽、今日も暑くなるぞとばかり足ノ松沢で朝飯もそこそこ尾根の登りにかかる。主稜のお花畑での遊歩を夢見ながら木陰で一服、又も休憩、ふと振り返る目に二王子岳が大

陽、午后三時、大石山の笹原にミネザクラの実を見つけ捜しては口に運ぶ、全くの遊歩、さすが夏の日差しも午後五時、鉾立峯ではいくらかその暑さも和らぎ一面立ち誇るトラノオも薄く白味がかり、杵差岳も目の前、その最後の登りを登りきると杵差の肩の広場に独り静かに微笑み、飯豊の主稜・大きな残雪・豊かなお花畑と尾根は広く高原を逍遙するこの飯豊連峰をこよなく愛した先蹤者、その不撓不屈の玄さんの寿像碑が待っている。その寿像碑前で記念写真、会津の銘酒を碑に献上、玄さんの尽くことなき功績を偲び杵差の小屋に入る。満天の星空も宿酔を覚ますに程良い冷たさ、遠く望まれる淡い街並の灯は新潟であろ

うか。午前四時、玄さん一行と豊子夫婦の二組に別れ、玄さん一行は北股・御西・本山主稜の縦走へと歩む、その後姿を見送り、豊子夫婦の一行は杵差岳から東俣を下る。前杵から千本峰にかかる途中はるか朝日連峰・蔵王・吾妻連峰と百八十度の鳥瞰を欲しいままにし、夏の日照りを木陰で癒し、休んでは歩き、歩いては休みの連続、モスカ

協会事務局

よりの連絡

①九月二十七日・二十八日昭和五十年度関東地区指導者研修会・土台山の家二十七日午後一時集合・二十八日正午終了解散・上中下越各地区より一名宛参加予定、詳細は事

十二支会光兎山(966m)登山を支援して

関川村山の会 平田 大六

「その年の干支(えと)の動物の名のつく山へ登る。同じ山があれば低いほうにする。わかにあわてはじめた。」

会員は全国で男は四十才以上。女は制限なし。登山の前夜祭で来年の山を正式に決定し、頂上で古稀、還暦の会員に記念品をおくる。発起人は今西錦司さんで会員は全国ツヅウラウラ。今年は二まわりめで、早春に越後の国関川村の光兎山(九六六)に内定し、時期は例年であれば正月をもって例会登山とするが越後の国は雪が深いので五月四日とする。四十七年に今西さんは秋差岳(一九三六)に登られたからすっかり関川村を気に入っておられ、光兎はタムシバの咲く頃や、と張り切っておられる。すべての準備、協力は関川村山の会でもらいたい。」

ざっとこんなしらせが岐阜大垣の高木晴男幹事(JAC岐阜)からといたのが、まだ寒いころであった。私の悪いクセで最初は、のんびりかまえて動きまわることになかったのだが、藤島

五月三日の午後、清流荘め

ざして、全国から続々と集ってきた。朝早く関川村入りして朴坂山(△四三八 一等)朝日村の新保岳(△八五二 一等)をさっさとかたづけられた方もおられた。

室割りはできないので、旅館のフロントで机をだしてまぢかまえたのだが、出身国、人数、室の収容数を頭のコンピュータにインプットして、たちどころに「もみじの間」「桐の間」とかの答を出さなければならぬのはきびしかった。十五時前後がピークでこの一時間さえしのげばと歯をくいしばった。

幸に、県内から藤島玄、斎藤平七、井口正男、五十嵐篤雄、広沢伝一、鈴木敏雄、坂井厚、小野健、各氏が参加されたので、大変心強く、助かった。

七十四名の大会で、場内はゴチャゴチャ。熱燗のトツクリが、まるつきり砂にまいていこうで手ごたえがない。さすがは酒のほうも十二支会であった。

四日は、夜来の雨が残っていた。十二支会は、どんな天候でも必ず頂上に行くのだそう。早朝なのにみんな時刻にはきちんとそろっておら

れる。登山靴を売っている店にはありませんか、ときた。手にボロ靴をさげている年配のお方だ。この靴は有名な女流登山家にいただいたのです。もうはけません。しかし、今日その女の方が見えられていたので義理でも持ってきたのですが、これではだめです。と悲しそうである。すぐ大きさをチェックして、会員の店の在庫で間に合った。

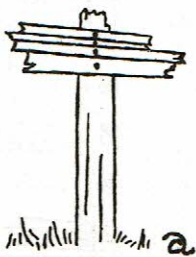
その次は、昨日、朴坂山へ登ったのですが、ふもとにカメラを忘れてきました。ときた。割合分別のあるようなお方である。すぐに会員が朴坂部落まで行ったが見えない。朝日村の新保岳のまぢがいであった。その次の方は、バイクを借して下さい。ときた。郵便局のスタンプをもらうのが趣味で、下関郵便局まで行ってきたいと云う。

場所をおしえている時間がないので、会員に行ってもらい、眠っている宿直員を起して、やっとスタンプをペタン。これはおそらく下関郵便局開局以来のことであろう。

山もなんだが、なにしろ全国の猛者共だから、ふりまわされるよ。と藤島さんが云っておられたのが、これだなど

務局へ
②十月九日～十二日 立山登山研修所で救急員指導講習会
参加希望者は事務局へ
③十月十一日～十二日 親睦登山 上越市青田南葉山 十一日上越市金谷山音羽館十八時三〇分集合 参加費二五〇〇円 申込は九月三十日まで事務局或は上越市、高田ハイキングクラブ 橋本正己あて
④山岳共済掛金の変更
第二次加入(十月以降)は従前の一八〇〇円が二二八〇円に改訂となります。今後新規加入・継続加入の場合は注意して下さい。詳細は登山月報でお知らせします。

- ⑤第二十回関東地区登山 体育大会
- 期日 十月十一日～十二日
- 会場 安倍川源流の山と谷
- 山伏岳大谷崩八絃嶺
- 主催 関東地区山岳連盟
- 主管 静岡県山岳連盟
- ⑥ヒマラヤの絵葉書六枚一組 二〇〇円 協会事務局まで申込み下さい。



思った。

登山者八十一名、古稀還暦の方を先頭にして、雨の中を登山開始した。今西さんは、タオルのはちまき、肩にズックのカバンのおつもの姿で、こうもり傘などさされて、犬山の佐藤さん等と小人数で、勝手気ままに登られていた。

光鬼山はピークが途中にいくつもある。雨とガスでよく見えないのだが、遠来の方々に、あのむこう、もう一つ越して本峰があるのです。と説明するのは酷な気持であった。

これまでの十二支会例会は、もっと案に登れる山だったようだ。例会の山にしてはちょっと、などと云う声もあったが、霧の晴れ間にあらわれた

白い飯豊連峰の峰々には、惜しみない歓声があがったし、さすがは、今西さん厳選の岳人で、高年令にもかかわらず、皆それぞれのペースで、予定時刻には、ぴたりと頂上に到着した。

雨の中での頂上の儀式は、古稀の野村俊男さん(岐阜)還暦の吉村比佐さん(大阪)への記念品贈呈、つづいて今西さん首頭のパンザイ。次に日本や世界の銘酒、名菓がつぎつぎと参加者から供えられ

た。熱いみそ汁のほうがよく売れるコンデションで、残念ながらビールは三分の一は再びかついでおろさなければならなかった。

下山口の小学校の分校へ予定時刻に集結し、そこからそれぞれ、解散して駅や旅館にむかわれた。

この方々の登山をみて、私はひとつの執念のようなものを感じた。たとえ年はとつても、その人の心掛けやトレーニングで、どんな山でも入られるということだ。

これは藤島さんをみれば理解できることである。一度にたくさんの藤島さんのダッシュを見せつけられたショックは大きかった。それに、新保

岳や朴坂山も登り口はやや難解なのに、ガイドレスでちゃんと頂上に立っておられる。たいていの外来の方々に、登山口付近まで、車や、案内を強要されたり、それでなくても問合せがひんぱんであった

りする今頃、あたりまえのほの行の為に、何故かすがすがしい驚嘆を味わった。応援いただいた県内の岳人の皆様に、紙面をお借りしてお礼申しあげる。

昭和五十年

夏山登山講習会 二種指導員 地区指導員

検定会所感

越稜山岳会 加藤 勝 義

二種指導員、地区指導員検定会と併せて夏山登山技術講習会を、土樽附近の山で開催した。昨年は運悪くアラスカ州のマツキンレー山、サウスバットレスに遠征中で見聞できなかつた。

今年 は 栃木 岳連の長老。鈴木 治 さんを迎え、百余名の参加もあって、盛会のうちに熱気のこもった討論や質問の連続で、その場の講師にあつた参加者は面喰いながらもなんとか持ち時間には耐えられたようだ。

二日間の日数は短いように感じられた。今回はあいにくの雨にたたられ、ミーティングに始終したが、それなりに成功した様に自画自賛する一人である。

ただ、今回の所感として云える事は、指導者(リーダー)であれば常に大自然の事物が対象であり、不可解な人間な動物がリーダーとの間に介在していることから云えば、日刻々に変化するすべての物に対応できる人であつて慾

しい。

今回検定会に出席した人達の中には、その点、スケールが小さいと云うか、指導者として求める側からすれば見劣りが感じられた。

藤島 玄 長老もその請評の中で強調されたように、具体的には深く大きな山、川に単独でもやれる人になってほしいと要望されたが、私も岳人として成長の過程では必要善と信じているし、まったく同感であつた。

スケールが小さいと云う感じは、参加者と共に行動し話し合の中で疑問も感じだし、提出された山歴を見ても納得出来た次第である。

山歴を要約して見ると、山行の大部分が無雪期に集中し、且つ日帰り山行が主である。冬山にいたっては、数人が未経験者であつた。また、大部分は二泊程度の山で、冬山の縦走にもなると、経験者は一歩程度と云つた心細い人達だ。五十才に手のとどく私の三分の一も山に行かない人達

であつた。

ただ、一つだけ感心した事があった。それは装備を見せてもらつた時である。非常用と赤書きされたコンバクトを持つている者が多かつたことだ。数年前の冬山遭対訓練の時、望月力講師が、自分達のグループが遭難の大きな犠牲から生れた救急バックを紹介した。この救急バックが会にもちかえて、会独自のカラーを盛り込んだものを見せられた。その会の指導力と指導者達のよりよいものを目ざす努力に敬服したい。

私達を含めた山岳協会は、より深くより高い山、未知のものに対して積極的に取り組み安全で楽しい山登りを目指しているのである。

山は登っている時こそ、苦しみ多く楽しみは少ないが、共に歩む仲間と街で語り合う時の楽しさは、また別ではなからうか。一杯かたむけながら次の山行を考える一時。

富山県立山町にある文部省登山研究所において、七月二十四日から三十日まで、開催された夏山研修会に参加してきました。

日頃の山行は地元の苗場山や鳥甲山の山行が多く、アルプスには十数年ぶりの入山ということに緊張して参加しましたが、室堂や雷鳥沢の変化や人の多いのには驚きました。新聞やテレビで人出の多いのは知っていました、実際に現地で見ると予想以上に自然環境のバランスを考えると将来が心配になります。

文部省の登山研修所は富山電鉄立山駅のすぐ裏手の高台に位置しており、室内体育館・人工岩場を備えてあり、岩場は四面でバランススクライミングの初歩技術訓練から人工登山用の上級技術訓練用までのすばらしいもので、研修二日目には、この岩場で初歩技術の練習を行いました。

研修所にはこの外に前進基地が剣沢と人津谷上部のニヶ所であり、冬山には人津谷、夏山では剣沢の前進基地を使

用研修を行っている。

今回の研修会参加者は北は北海道から南は九州の宮崎まで全国の山岳会から三五名が集り、内七名が女性で男性にまけずに活躍していた。

研修生は研修期間中は班別行動をとり、班は研修生三、四名に講師が一名で編成し、講師と研修生一体で生活技術歩行・岩登り技術等について研修を行った。

研修日程は、一日目・二日

昭和五十年

一般山岳団体夏山指導者

研修会に参加して

報告

津南山岳会 清水 迪 男

生活技術では、入山後幕営生活四日間を過ぎたが、食事

については日頃女性会員から世話になっていたので、うでがなまっており大変でした。

入山・下山には研修所の専用バスで室堂まで送迎していただき、下山の車内では各班ごとに歌の交換を行い和気合い合いの内に閉会式を終え、今後共おたがい情報の交換をするを約し、全員元気で別れた。

今回の研修では天気めぐまれ、全研修内容の予定を消化した。この度の研修に参加したことにより、岩登りの基本を知り、又、各地域の山岳会の実状を聞くことができ、我が山岳会のあり方についても比較して見ることができ、大変に良い勉強をさせていただきました。この研修に参加するに對しお骨折りをいただいた県山岳協会の役員の方にお礼申し上げます。

山登りと私

十日町山路野会

竹内 幸雄

山が恋人

私は高校三年の春から山登りをはじめました。山歴は八、九年余りですが、山は私にとって青春の全てであります。山登りという行為が何故楽しいか、何故山に登るのか、自分で山に登っていないながら最初は理解できませんでした。「ある人は「山がそこに有るから登るんだ」とも「それを征服したいから」と云います。私もそのうちの一人ですが、それだけではありません。例えば、魚釣りの好きな人に聞けば、「釣りはおもしろいぞ」と答えるでしょう。ゴルフの好きな人に聞けば、「ゴルフはおもしろいぞ、気分がいいぞ」と云うでしょう。また、どこの会社の社長も、「仕事はおもしろいぞ、おまえもしっかり仕事をしろ」と登るでしょう。私もその通りだと思います。理屈はどうであれ山登りがおもしろく、す

では何故、山登りが私にとっておもしろいのでしょうか。そこには銭もうけも損も得もありません。あるのは計画実行・反省・それに死ぬような辛さです。このような繰り返しの山行であっても、この行為が私は好きなのです。好きでたまらないのです。苦しく辛い岩登り、また縦走、雪山登山、今年の正月に登った八ツ岳での厳冬の岩登り、これらが私にとってはたまらないほどおもしろかったです。

数多くの山行を通じて培われた友情やチームワークが人生にとって一番大事に思えてきたこのごろです。自信は山も仕事も同じ



友情・チームワークの魅力

最後に私の現在の目標は、「ヒマラヤ」です。

な か ま の か お

水原高等学校山岳部



一、構成と組織

顧問二名 代表吉田 正
部員三年四名 二年一名
一年四名

リーダー・装備・食
当・気象・医療の各
係をおいている。

二、特徴と方針

高等学校のクラブ活動の一環でありその範囲内で活動をおこなっている。
①自然に対する情熱と理解を深める。

②体力・気力の養成

③登山に必要な知識や技術の習得

④将来地域社会でよきリーダーとなるように、

以上のような目的をもって、年度始めに年間の山行計画を立て、高体連の大会のない月は部独自の山行を行っている。越後の山は、春山(残雪のこ

四、ホームグラウンド

(地域研究など)
五頭連峰・尾根はもちろ
ん、秋には沢歩き・残雪
期(積雪期)は連峰の縦
走とスキー山行とオール
シーズンをおこなっている。

弥彦山岳会

一、構成と組織

創立 昭和二十六年六月
会員数 十五名
会長 花井 馨
代表幹事 堀内 二郎

二、特徴・方針

昭和二十九年以来続いて
いる、新潟県登山祭(弥彦
山松明登山祭)行事の年
毎の隆盛と、これが県下
岳人の一大交歓の場とし
て意義あらしめるよう努
力している。

三、会報とバッジ

会報 年二回発行の予定
バッジ 制定していない。

四、会員募集方法

口コミで青年層に呼びか
けているが効果挙げらず、
良い方法があったら教示
願いたい。

五、地域研究など

①近く定年退官し郷里に
帰られる伊藤至先生の指
導を受け、弥彦山の植物
について調査勉強するこ
ととした。

②今年春行われた国体県
予選を契機として、近隣
の山岳会と図り尾根道の
維持整備に努力すること
とした。

尾関広氏のご逝去を悼む

尾関広氏(元全日山岳連盟会
長)九日午前四時、十二指腸
かいようのため死去。

尾関広氏は全日本登山大会
(越後三山)新潟国体(飯豊
連峰)とも大会役員として来
県している。県内の岳人にも
顔馴染の人も多いと思います。
協会ではこの訃報に弔電を打
ち、謹んでご冥福を祈る次第
である。

あとがき

夏山シーズンは相変わらず各
地の山は賑わいをみせていた。
その反面、一部の心ない人た
ちによって山はヨゴされるの
は、はなはだ残念である。

四七年結成以来、県ゴミ会
議のメンバーは、自分たちの
山行を犠牲にして県内の各山
々を美しくしようと精力的に
清掃登山という奉仕活動を続
けている。この行為に対して
敬服している一人である。

本来は、こんな運動をやら
なくても、山に登る人一人一
人が自覚し注意すれば済むこ
とである。しかし、現実はな

かなかそうはいかない。
このような意識の低くさの
原因はどこにあるのだろうか。
日本国民全体に浸透してし
まった。無責任で利己主義的
な考え方は教育(家庭教育・
学校教育・社会教育)にある
のだろうか?。最新の生活様
式の変遷に基因するのである
うか?。山のゴミだけにかぎ
らず、日常生活で子供たちが
道路に電車やバスの中にゴミ
を無意識に捨てても、親や周
辺の大人たちは全く無感心で
子供たちに納得するように教
え注意をしているであろうか
.....。

いずれにしても、山からの
ゴミ持ち帰り運動だけでは奉
仕活動を繰り返すだけで、山
のゴミをいつ掃するわけには
ゆかない。

親が日常生活の中で、子供
たちのシツケや各山岳会にお
いても、登山技術指導以上の
道徳の高揚に心がけ、山や街
も美しくすることを考え、私
たちのできることから大きな
活動に展開させたいものであ
る。



藤井 信